

理科授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- ・全学年において基礎知識の正答率は平均を下回っている。特に第4学年は10ポイント以上の差がある。
- ・領域別では全学年に共通して物質・エネルギー領域、特に電気・電流の学習内容が定着していない。
- ・実験を伴う学習単元の正答率が低い傾向が見られる。
- ・基礎知識の定着率が低いため、活用問題の正答率も平均値と5点以上の差が見られる。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
		<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察には意欲的に取り組むが、知識が定着していない。 ・実験や観察を通して得た結果から、考察すること、新たな問題を設定することを苦手とする児童が多い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察には、前向きに取り組む姿勢が見られるが、実験することに満足してしまい、知識が定着していない。 ・予想を立てる際、理由付けが苦手である。自分の生活を振り返るなど、身近に興味をもたせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって、実験や観察を行うとともに、それぞれの単元で押さえておくべき知識の定着が十分に図られていない。 ・実験結果から分かったことをまとめていく過程を丁寧に行うことで、考察する力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体の正答率が大田区の平均より2ポイント以上低い。 ・スライドガラスや顕微鏡の倍率を求める問題については誤答率が高い。 ・応用問題の正答率はどの問題においても目標値を5ポイント以上下回っている。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の徹底活用 ・実験や観察を通して得た経験と、習得すべき知識とを結び付けて学べるようにする。具体的には、実験・観察後のまとめを行う際には、十分に時間をとる、教科書や映像教材を活用し得た経験を確かな知識としていくなどに取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験から分かったことを声に出させることで知識の定着をはかる。 ・体験的な学習を通して、空気、水及び金属の性質、電流の働きについての理解を図る。 ・実験だけでは理解しづらい結果については、電子黒板で動画を見せるなどして補足する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の徹底活用 ・教科書をもとに実験結果をノートにまとめたり、教科書の資料から必要な情報を読み取ったりする活動を増やす。 ・理解の度合いを確かめることができるように、学習プリントを活用し、知識の定着をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の徹底活用 ・実験では、顕微鏡といった装置を一人1回は使用し、確実に技能を身に付けることができるようにする。実験についての結果を自分の言葉でまとめられるようにする。 ・単元の終わりなどに、学習プリントやタブレットドリルといったものを活用し用語やまとめを再度確認する。
思考・判断・表現			<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を通して分かったことを日常生活に当てはめて考える学習活動を設定し、そこから差異点や共通点を見いだし、新たな問題を見出す力を養うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などで、分かったことと自然の事物・現象とを結び付けて説明できるようにする。 ・話し合いの場を設け、ある現象が起きた理由について明確に説明する機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行った後に、実験の過程や結果、考察を児童にとって分かりやすい資料を提示する。また、考えを交流する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験では、まず、見たことをそのまま記録する習慣を付け、そこから考察を進めるようにする。 ・どのようにしたら正確な結果が得られるかについて、グループ学習を通じて考察が深まるようにする。
主体的に学習に取り組む態度			<ul style="list-style-type: none"> ・身近な話題と学習内容を結び付け、学習に取り組む目的をもてるようにする。 ・学習を振り返る際、相手に説明したり、自分の理解度を振り返ったりする学習活動を設定し、自分自身の学びを自覚できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習と結び付けて、そこから新たにどんな変化があるのかという問いをすることで児童らの興味・関心を高める。 ・実生活との関連を意識させ、主体性を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでの調べ学習の機会を設け、関心をもったことを進んで学習することができるようにする。 ・学習の過程で、自分の考えを伝えあったり、理解度を振り返ったり、学習感想を書いたりできる機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活との関連を意識させ、関心・意欲を高める。 ・学習の過程で、自分の考えを伝えあったり、理解度を振り返ったり、学習のまとめや学習感想を自分自身で書いたりできるようにする。

※太枠内は、特に重視する内容